

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



黄土高原スタディツアー参加者が南天門登頂！！

Contents

- 緑の地球ネットワーク 25 周年の集い 北京で開催 P2
- 2016 黄土高原スタディツアー写真報告 P4 ~ 5
- 関東ランチ西伊豆秋の合宿参加者募集 P6
- GEN 自然と親しむ会秋のキノコ観察会参加者募集 P6

2016.9
171

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 25 周年の集い 北京で開催

高見邦雄副代表が中日友好使者の称号を授与される

大同での緑の地球ネットワークの緑化協力 25 周年を記念する集いが 8 月 31 日（水）午後、北京の中国人民対外友好協会和平ホールで開催されました。主催は中国日本友好協会、中華全国総工会、中華全国青年連合会、中華全国婦女連合会、中国共産党中央対外連絡部、中国国際交流協会などの関係者、自然之友など NGO 関係者、在中国日本大使館、国際協力機構、日本人商会、日中経済協会、中日友好環境保護中心など在北京の日本人、両国のメディア関係者、そしてスタディツアー参加者など 130 人余りが出席し、とても盛会でした。



最初に、中日友好協会から高見邦雄副代表に「中日友好使者」の称号が送られることになり、許金平副会長が「厳しい環境のもとで長く活動を堅持したことは敬服に値する」と祝辞を述べ、記念の楯などが手渡されました。高見副代表は「関係するすべてのみなさんの代わりに授与されたものなので、それを汚すことのないよう心したい」とお礼を述べました。中日友協の張振興理事の両国語をつかった軽妙な司会で集いは進行しました。

中国共産党中央対外連絡部の劉洪才副部長が「一度だけいいことをするのは簡単でも、いいことを堅持するのは容易でない」と挨拶しました。緑の地球ネットワークの前中久行代表が、冒頭は中国語で、その後は日本語で「この活動を継続するうえで中国と日本の多くの人たちの支援が寄せられたことに感謝したい」と挨拶しまし

た。中華全国総工会国際部の白立文元副部長は「協力事業を通じて緑を増やただけでなく、日中両国民の友好を増進した」と活動を高く評価しました。在中国日本大使館の山本恭司公使は「環境協力は日中間の協力が重要な部門だ」と激励の挨拶をしました。

その後、高見副代表が緑化の深化を示すスライドを使って、四半世紀にわたる大同での緑化協力事業を報告しました。緑色地球ネットワーク大同事務所の代表に、会場から惜しめない慰労の拍手が送られました。

集いに先立ち、中国人民対外友好協会の宋敬武副会長がスタディツアーの参加者一行と会見しました。集いには文化部の劉徳有元副部長、全国人民代表大会外事委員会の曹衛洲副主任、中日友協の袁敏道秘書長、中国国際交流協会の倪健秘書長などが出席しました。主催者によると、局長級まで紹介する計画だったが、数が多すぎたので、副部長（副大臣）までにとどめたとのことでした。

9 月にはいつて、たくさんの中国メディアがインターネット上で集会のようすを報道しています。

夏季カンパのご協力ありがとうございました

GEN の活動の節目となる今年、事務所の引っ越しや北京での記念イベントもおこなわれ、例年以上に忙しい夏を過ごしました。いろいろと手が回らずにいることもあります。少しずつ平常運転に戻ってきつつあります。

さて、夏のカンパのご報告ですが、7 月 15 日以降 9 月 5 日までにお寄せいただいたご寄付は 855,046 円、85 件でした。ご協力ありがとうございました。昨年同期間が 1,332,039 円、63 件だったので、件数は増えたものの金額は前年比 64% に留まりました。4 月 1 日から 9 月 5 日までの累計では、2,135,785 円、146 件となり、昨年度の 1,939,800 円、115 件をやや上回っています。

しかしながら、今年度予算 790 万円の 27% に留まっており、財政が厳しいことには変わりはありません。GEN の活動はみなさまに支えられています。少しずつでも可能な範囲でのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ネット環境のある方は、毎日ワンクリックで GEN を支援できる gooddo にご協力ください。gooddo.jp/gd/group/gentree/?from=fbn0 にアクセスして、「応援する！」ボタンを押すだけ。無料で GEN を応援できます。よろしくお願いたします。



喜びに満たされて

松永 光平（立命館大学 准教授）

7 月 16 日から 18 日まで、2 年ぶりに大同に行き、緑化プロジェクトの成果を見せていただきました。同行したアジア経済研究所の大塚健司さんは 2 回目、山田七絵さんは初めての GEN の緑化地の訪問です。

今回も、前回と同じく贅沢な（ありがたい！）ことに、大同事務所の魏生学副所長が案内してくださったのですが、さらに所員の李海静さん、そして通訳の王萍さんがついてきてくださるという、サプライズ。本当に…たすかりました。

王萍さんには、筆者が体調を崩して下痢続きであることを心配していただき、漢方を紹介いただきました。空港で買ったけど、よく効きました。いろいろと、ありがとうございました。それと、GEN 事務局の河本さんにもお世話になりました。総会の準備で忙しい中、唐突に「大同に行きたい！」と駄々をこねる私をなだめるように、すばやくスケジュールを組んでくださり、ほ

んとうに助かりました。心よりお礼申し上げます。

前置きが長くなりましたが、今年が大同で植樹をおこなう最後の年だと聞いていた私たちは、見るもの聞くもの食べるもの（私はあまり食べられませんでした…）をせいはいっぱい吸収することに努めました。

私にとってのハイライトは、金山寺。写真で、ぼっこりとつきでているのが、火山。悲しいことに、ここは、日中（中国語では抗日）戦争のとき、大塚弥之助という、筑波大学（当時東京文理科大学）の地理学の草創期の先生がやってきて、火山の噴火時期の調査をした場所なのです。地理学を専門とする筆者にとっては、同業者の戦争協力の歴史は、胸が痛む話です。でも、同じ日本人が、事務局のみなさん、ボランティアのみなさんが、GEN のツアーなどを通じて金山寺の火山のふ



もとで緑化して、永遠にその事実が歴史に刻まれたこと、そのことは、ほんとうにうれしく、いつまでも記憶に残ってほしいと思いました。

喜びに満たされて、GEN25 年の大同緑化の成果を見せていただきました。感謝！



金山寺（遠景が火山で、そのふもとが GEN によって緑化された場所）（2016 年 7 月 17 日大塚健司撮影）

いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会員	12,000 円
家族会員（同居の家族 2 人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円
※会費は会報購読料を含んでいます。	

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。＊

緑化基金の 20% は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊
【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定 NPO 法人です。（期限は

2019 年 4 月 8 日まで）。

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたは個人住民税控除を受けることができます。くわしくは GEN までお問い合わせください。



2016 黄土高原スタディツアー 写真報告

2016年は立命館大学の松永光平さん、アジア経済研究所の大塚健司さん、山田七絵さん(7月16日～18日)、GEN黄土高原スタディツアー(8月26日～9月1日、31名)、イオンリテールワーカーズユニオン(9月2日～4日、23名)大阪市RR厚生会ツアー(9月5日～9日、5名)が大同を訪問しました。今回はGENの黄土高原スタディツアーのようすを写真でご紹介します。



①



②



③



④



⑤



⑥

今回のツアーは学習院大学の学生も参加して31名の大所帯でにぎやかにおこなわれました。

①ツアー2日目は大同市霊丘県の南天門自然植物園を訪問しました。李向東さんほか園のスタッフにあたたく迎えられ、午前は植樹活動に汗を流しました。

②お昼は恒例のカップラーメン。「学生搾菜」が意外と好評。

③午後は園内を見学してまわりました。ナラを中心とした落葉樹の森林が再生している姿を確認することができました。

④園内のナラがどんぐりをつけていました。今年は生り年。

⑤、⑥ツアー3日目、渾源県へ向かいまわりました。途中、懸空寺を見学し、呉城村へ到着。アンズ果樹園を見学しました。



⑦



⑧



⑨



⑩

⑦ツアー4日目の午前は緑の地球環境センターで記念植樹をおこないました。お昼にスッポンを食べて大満足。

⑧、⑨午後は采涼山、カササギの森を見学。マツが5mないし5.5mに生長しました。

⑩ツアー5日目、雲崗石窟、万人坑見学のあと、かつて環境林センターのあった口泉植物園を訪れました。管理棟にあったシダレニレはそのまま残されていました。

⑪夜行列車で北京へ移動し、6日目は北京で開かれたGEN25周年記念の集いに参加しました。「中日友好使者」を授与された高見副代表を囲んで記念撮影。



⑪

関東フランチ 西伊豆秋の合宿

関東フランチ秋の合宿を行います。恒例のサトイモ・サツマイモの収穫を大いに楽しむとともに、大同での緑化に威力を発揮した無煙炭化器を活用し、ここ西伊豆ではクール・タウン構想を新たに起動しようと思います。山の放置間伐材や建築廃材などを木炭にし、里ではヤーコンの栽培、山では硅石採掘跡地の緑化、岬では松林の再生に投入することで、CO2の排出を抑制し、地域の自然を豊かにしようとする試みです。また、地元では地域創生にむけた動きが本格化しています。この動きに参画する予定です。

まだ活動の詳細は固まっておりますが、下記の期間と場所は確定しております。参加希望の方、詳細情報を入手したい方は、下記の連絡・申込先にご一報ください。

○期間：2016年10月28日（金）17時ごろ現地集合～10月30日（日）12時ごろ現地解散

○申込み：電子メール＜matizukuri.college@gmail.com＞
代表者氏名・人数および合宿時使用の携帯電話番号を明記。

○申込締切：10月22日（土）必着。
期間中連絡先：上田（携帯：090-5444-3517）

○宿泊場所：GEN 関東フランチ宇久須 宿舎（住所：静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須 607）

○アクセス：東海バス 宇久須バス停下車、徒歩6分。宇久須交差点を池田医院側に進む。地元では「東海工業のクラブのあったところ」と尋ねてください。

※交通費は自己負担です。

以下、東京からの交通手段の例です。
高速バス利用（新宿～修善寺）＋路線バス（修善寺～宇久須）宇久須往復の割引あり→往路＝新宿 9:15 発、復路＝修善寺 15:20 発

高速バスは事前予約：www.j-bus.co.jp/ 電話予約 0570-01-1255
東海道線利用（東京～熱海～三島）

＋伊豆箱根鉄道（三島～修善寺）＋路線バス（修善寺～宇久須）
踊り子号（東京～修善寺）という方法もあります。

中部、関西方面からは清水～土肥のフェリーを利用する方法もあります。
○費用：宿泊費（宿舎管理費・光熱費・寝具）・食費（懇親会費用は別）。宿舎利用 2 泊：8,000 円 宿舎利用 1 泊：5,500 円

○持ち物：農作業・山歩用の服装。帽子、雨具、軍手、シャツ、寝間着、洗面用具、筆記具、ノート

※宿舎のシャツは洗濯する時間がないため、持参してください。寝袋も可。



GEN 自然と親しむ会 秋のキノコ観察会

秋はキノコの季節。恒例となりました GEN 自然と親しむ会でのキノコ観察会、今年は八幡市の八幡宮が鎮座する男山でおこないます。最高峰の鳩ヶ峰で標高 142.4m、ゆっくり進めばさほど負担なく登れます。竹林もあるので運が良ければキノコの女王、キシガサタケに出会えるかも？

○日時：10月16日（日）10時から15時ごろまで

○場所：八幡市石清水八幡宮周辺

○集合：10時に京阪電車「八幡市」駅改札集合

○案内：栗栖敏浩さん（樹木医、（株）環境総合テクノス環境部）

○持ち物：動きやすい服装・靴、帽子、弁当、飲み物、雨具、あればキノコ図鑑

○参加費：700 円

○定員：20 名（先着順）

○申込み：10月12日（水）までに氏名、年齢、連絡先を GEN 事務所まで。

※小雨決行

伝えたい言葉は「ありがとう」

8月31日におこなわれた GEN25 周年の集いに参加した中国の方から、メッセージが届いたので紹介します。

今日、中国北京で高見様の「中日友好使者」授賞式に参加させていただきました。わたしの少年時代から（多分小学校や中学校の時かな）、わざわざ中国に來られて、わたしの実家のある内モンゴルなどで、とくに貧乏、そして自然条件が厳しいところで、木を植えるという日本からの緑の使者たちがたくさんいると聞いたことがあります。

はっきり覚えていませんが、授業で先生から聞いたこともあると思います。が、そのとき、感謝の言葉は先生やクラスメートから聞かれませんでした。やはりおかしいなと思います。

今日初めて GEN のやっていらっしやることを詳しく知りました。中国人と

しても行きたくない住みにくいところに日本人の方がたが木を植えに母国から離れて、お金を出して、一年間に数十日～100日間も滞在して、しかも25年間も続けているとは、本当に感服の思いしかなかったです。

今日の授賞式で、中国人から高見様へのおめでとうは何回も聞きましたが、一番言うべき言葉がまた聞こえてきませんでした。なので、このメールを送ろうと思いました。高見様、そして GEN のみなさま、本当にありがとうございました！！

25年間、お疲れさまでした。みなさまのご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

黄土高原史話<79>

仏教都市の明と暗（上）

今夏のスタディ・ツアーでも、大同では雲崗石窟の見学に時間を割いたことでしょう。2001年、世界遺産へ登録前後、石窟の修復と周辺の整備が進み、このところ内外からの観光客も増加の傾向。

ところで大同市内には、遼代（916～1125）創建の華嚴寺（のち重修）が最古で、北魏時代の寺院はないが、文献によると、前半の都・平城（大同）には100もの寺が存在した。そして後半の都・洛陽になると、最大1367寺と激増。その洛陽には、西晋（265～316）のとき42寺があったというが、北魏の造寺・造仏の盛んなこと、すでにして平城時代に発しており、洛陽に至ってその勢いが最高潮に達したというわけだ。

ちなみに、唐・杜牧の名吟「江南の春 絶句」にいう「南朝四百八十寺」。

谷口 義介（GEN 会員）

にして、第八代孝明帝の母たる靈太后胡氏の発願にかかる。太后は、のち仏門に入って尼となり城内の胡統寺に住むほど、深く仏教に帰依した。

永寧寺以下にあげられる諸寺は、歴代の皇帝から皇族・高官・宦官など時の有力者が、その邸宅を提供したり資財を投じて建てている。その他、城東の竜華寺は近衛の将兵が共同で建てたもの。

これらとは別に、一般の庶民が共同で建てて、経費も負担した例がある。環珞寺は、建春門の外、御道の北の、いわゆる建陽里にあった。・・・里内には環珞、慈善、暉和、通覚、暉玄、宗聖、魏昌、熙平、崇真、因果などの十寺があった。里内の人々二千余戸は仏教を信奉し、衆僧の暮らしも、人々の供物によって。（入矢義高訳）



北魏などの北朝と対立した南朝の宋・斉・梁・陳のうち、特に仏教が盛んだった梁の武帝（502～549年在位）のとき、その都・建康（南京）には実際500余の寺があったらしい（『南史』郭祖深伝）。楊衒之の『洛陽伽藍記』は、「北朝1367寺」のうち、著名なものの50余寺について記述するが、冒頭かなりの部分を占めるのが永寧寺。本シリーズ<77>でも紹介した。第七代宣武帝の妃

面白い話を二つほど。

第九代孝莊帝の永安年間（528～529）、城東の殖貨里に住む四人兄弟は屠殺業を営んでいたが、同じ里に住む太常寺の官奴が豚を殺そうとすると、豚が「お助け、お助け」と叫んで、その声は四隣に響き渡った。隣人たちは、四人兄弟が大喧嘩をしているのだと思って見にくくと、それは豚の仕業だった。不思議を感じた兄弟たちは、家を喜捨して帰覚寺とし、家中みな出家してしまった、と（巻二）。

城西の阜財里に開善寺があるが、もとは韋英という人の屋敷だった。韋英が亡くなると、その妻は葬式もすませぬうち、男を引っぱり込んで夫とし、その家に住み続けた。ところが、この話が広まると、死んだはずの韋英が昼の日中、馬にまたがり従者をつれて家の前まで来て、「お前はわしを忘れたのか！」と怒鳴った。驚きかつ恐れた新夫が弓を引いて射ると、韋英はバツタリ倒れて、桃の木で作った人形となった。馬は茅の馬に変わり、従者も蒲の人形になった。これを見た妻女は恐ろしくなり、屋敷を喜捨して寺とした。これが開善寺である、と（巻四）。

本シリーズ<55>「皇帝様は生き仏」で述べたように、国家宗教として仏教を導入した平城時代の北魏。洛陽時代に至って仏教は民間にまで広まってきたことが、これらの説話からうかがえる。

運営懇談会にご参加ください

今年も運営懇談会を開催します。大同との今後のかかわりや張家口市蔚県の新プロジェクトについてなど、みなさんの率直な意見をお聞かせください。
【大阪会場】
○日時：11月19日（土）13時30分～16時30分

○会場：弁天町 ORC200 生涯学習センター第2研修室
【東京会場】
○日程：11月26日（土）15時～18時
○会場：立教大学池袋キャンパス13号館1階会議室
※詳細は11月号でお知らせします。

情報ひろば
いっしょなかたち

水都おおさか
もり
森林の市 2016

森林の恵みに触れ、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目指した森林の市が大阪で開催されます。

○日時：10月2日（日）10時～16時
雨天決行（荒天中止）

○会場：近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園（JR環状線「桜ノ宮」西出口から徒歩5分）

○入場料：無料

○主なイベント：ワークショップ（木工クラフト、イス作りなど）／木の玉プール、木のおもちゃ遊び、大型絵本の読み聞かせ／森の食材を生かしたフードコーナー（原木シイタケ、鹿肉の試食、ジビエ料理）／ボート乗船体験／スギ板張り体験、丸太切り体験、測量体験／木製品の展示／農林産品、木製品の販売

○主催・問い合わせ：水都おおさか

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

森林づくり・木づかい実行委員会事務局（〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-75 近畿中国森林管理局技術普及課内 tel. 06-6881-3484 fax. 06-6881-2055 URL <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/index.html>）

電力自由化「最新情報」交流会

～未来のため、
選ぼう！決めよう！切りかえよう！～

今年4月から始まった電力小売全面自由化。私たちの選択が社会を変えることにつながるかもしれません。

○日時：10月8日（土）13時30分～16時30分（受付13時10分～）

○場所：しんらん交流館 大谷ホール（京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199 東本願寺北側）

○プログラム：話題提供「電力自由化の“トリセツ”」加志村拓氏（京都大

学大学院）「電気を選んで社会を変えよう」吉田明子氏（パワーシフトキャンペーン運営委員会）／電力会社からの情報提供／電力会社との交流タイム

○対象：家庭向け、事業向けの両方を対象

○定員：200名（申込先着順）

○参加費：無料

○申込み：参加申込フォームにご入力ください。 <https://goo.gl/JenGDK>

○主催：京のアジェンダ21フォーラム 電気を市民の手で選ぼう！京都キャンペーン推進プロジェクトチーム

○協力：京都グリーン購入ネットワーク

○問合せ先：京のアジェンダ21フォーラム（〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター内 tel. 075-647-3535 fax. 075-647-3536 e-mail: ma21f@mboxkyoto-inet.or.jp）